

市立札幌病院における新型コロナウイルス感染症への対応

1 新型コロナウイルス感染症患者の入院状況

(1) 入院患者数の累計（速報値）

当院では、第一種及び第二種両方の指定を受けた感染症指定医療機関としての役割を果たすため、令和2年1月より新型コロナウイルス感染症における重症患者及び中等症患者の受入れを積極的に行っております。

令和2年1月から令和4年6月までの入院患者数累計は、1,859人となっています。

	新入院 患者数	延入院患者数（合計）		延入院患者数（うち重症）	
		年度計	1日平均	年度計	1日平均
令和元年度(※)	30人	355人	5.5人	33人	0.5人
令和2年度	741人	10,487人	28.7人	837人	2.3人
令和3年度	940人	10,484人	28.7人	757人	2.1人
令和4年度(※)	148人	983人	10.8人	7人	0.1人
合計	1,859人	22,309人	25.2人	1,634人	1.8人

※令和元年度は1/27～3/31、令和4年度は4/1～6/30までの実績値

※新型コロナウイルス感染症患者の入院状況及び確保病床等の推移は別紙のとおり。

(2) 感染症患者の受入病床の確保及び国の財源措置等

- 令和2年11月からの感染拡大期（道内第3波）では、感染症患者の受入病床を110床まで拡充し、ピーク時には89人が入院。
- 令和3年3月下旬頃からの感染拡大期（道内第4波）では、感染症患者の受入病床を100床まで拡充し、ピーク時には98人が入院。
- 感染症用病棟に多くの医師及び看護師の配置が必要であったため、一般救急患者の受入制限、外来診療における新患受入休止及び入院病床の縮小など、一般診療を制限。特に、令和3年5月下旬から6月前半は、一般病床の588床のうち、一般診療に使用できる病床は過去最少の265床（約45%）のみと、多くの病院機能を制限しながら運用せざるを得ない状況となった。
- 令和2年度以降、感染症患者の受入病床の確保等に伴う診療収益の減収は、国の病床確保補助金により補填されている。

2 市立札幌病院における新型コロナウイルス感染症の集団感染の発生

令和2年1月からこれまでの間に、計3回の集団感染（院内クラスター）が発生しています。それぞれの概要は以下のとおりです。

(1) 1回目（令和4年1月29日～2月10日陽性判明分）

ア 発生状況等

陽性者内訳	人数
入院患者	67人
職員	28人
合計	95人

イ 一般診療への影響

入院、外来とも新規患者の受入を一部抑制

(2) 2回目（令和4年6月12日～6月17日陽性判明分）

ア 発生状況等

陽性者内訳	人数
入院患者	10人
職員等	28人
合計	38人

イ 一般診療への影響

なし

(3) 3回目（令和4年7月20日～陽性判明分）

ア 発生状況等（7月22日時点）

陽性者内訳	人数
入院患者	11人
合計	11人

イ 一般診療への影響（7月22日時点）

なし

3 新型コロナウイルス感染症患者の受入による一般診療への影響

新型コロナウイルス感染症への対応のため、一般救急患者の受入制限、外来診療における新患受入休止及び入院病床の縮小など、感染状況に応じた一般診療の制限を行った結果、令和2年度と令和3年度の入院患者数は、令和元年度から約3割の減となりました。

令和4年度は、感染症患者の受入れのための病床確保は継続しているものの、院内クラスターの発生時以外は、通常の一般診療体制となっています。

全国的に新型コロナウイルス感染症が再拡大の傾向にあり、今後も予断を許さないところではありますが、引き続き札幌市保健所等と連携しながら、当院の担うべき役割を果たしてまいります。

市立札幌病院 入院患者数と確保病床数の推移（新型コロナウイルス感染症）

